

Manus vs Perplexity Computer vs Claude Cowork 知財業務でどれが本当に使えるか

エグゼクティブサマリー

結論から言うと、知財部門の主戦力として最も無難で再現性が高いのは Claude 系のチーム向け導入、先行技術調査や類似調査のように「根拠付き探索」が中核なら Perplexity Computer が最有力、Manus は自動化と横断ワークフローでは面白いが、知財本番運用の一次選定としては公開情報の透明性と引用追跡で一段劣る、というのが妥当です。特に、Anthropic ¹ の Claude 系は、Team/Enterprise、Research、コネクタ、Word アドイン、監査・保持・IP allowlisting などの企業統制が厚く、文書中心の業務に強い一方、**Claude Cowork 自体は現時点で監査ログ/Compliance API 非対応で、規制ワークロード非推奨**という明確な制約があります。 ²

一方、Perplexity AI ³ の Perplexity Computer は、**検索ネイティブ、インライン引用、組織ファイル検索、監査ログ、保持設定、SCIM、コネクタ制御、隔離サンドボックス**が揃っており、「探索→比較→下書き→共有」の流れを最もきれいに実装できます。知財業務のうち、先行技術調査、類似商標検索支援、競合技術の横断比較では、3製品の中で最も“実務で事故が起きにくい”設計です。弱点は、**契約レビューや請求項ドラフトの専用UIがClaudeほど成熟していないこと**と、**特許DB・商標DBのネイティブ連携が公開資料上は見当たらないこと**です。 ⁴

Manus は、MCP コネクタ、カスタム MCP、Slack/Zapier/API、Wide Research、デスクトップの“My Computer”、コンプライアンス API など、「何かを探す」より「横断して動かす」方向に強みがあります。ただし、**基盤モデルの公開情報が薄い、料金がクレジット制で予見性が低い、端的な法務向けUIや引用追跡の説明が薄い、データ所在地・APPI・VPC/オンプレなどの公開情報が不足しており**、知財部門の本番標準に据えるには追加のベンダーデューデリジェンスが必要です。 ⁵

したがって、単独採用なら「**Claude Team/Enterprise を本命、Perplexity Computer を次点**」、**2製品構成が許されるなら「Claude を文書ドラフト・レビュー基盤、Perplexity を探索基盤」に分けるのが最も実務的**です。Manus は、まずは**非機密または準機密の収集・整形・通知・多アプリ自動化**で限定導入し、知財コア文書への適用は後段で判断するのが安全です。 ⁶

前提と評価軸

本レポートでは、比較対象を次のように解釈しました。**Manus** は最新の Manus 1.6/1.6 Max と Team 機能群、**Perplexity (Computer product)** は Perplexity Enterprise 上の Computer、Spaces、Internal Knowledge Search、Connectors を含む知識労働向け構成、**Claude Cowork** は Cowork 単体ではなく、最新の Claude Team/Enterprise、Research、Connectors、必要に応じて Word アドインまで含む「企業向け知識労働オファリング」として扱っています。製品バリエーションが曖昧な点はユーザー指定どおり明示し、**厳密なベンチマークではなく、公開仕様・公式ヘルプ・価格・セキュリティ文書に基づく分析評価**です。 ⁷

また、知財業務の対象範囲は、**特許・商標・著作権・契約レビュー・先行技術調査・要約・意見書作成**とし、特に「先行技術調査」「類似商標検索支援」は、**特許庁・商標DB・有料法務DB**といった一次DBが必須になりやすい点を前提にしました。今回確認した公式公開資料では、3製品とも **Derwent、Orbit、PatSnap、LexisNexis、Westlaw、J-PlatPat** 等へのネイティブ連携は明示されていません。そのため、こ

これらのユースケースは「正式調査の代替」ではなく、**探索補助・要約補助・比較補助**として評価しています。

8

コスト試算では、税別・米ドルベースの公開価格をそのまま使い、**3-5名の小規模知財チームと20-50名の大規模チーム**を想定しました。Claude Enterpriseは**席単価に加えてAPIレートで実使用量課金**、Manusは**クレジット制**、Perplexityは**主に席課金+一部上位機能/Computerクレジット**という違いがあるため、TCOは「価格の安さ」だけでなく**予算予見性**も重視しています。 9

製品別ファクト比較

主要属性の比較表

項目	Manus	Perplexity Computer	Claude Cowork
基本位置づけ	自律エージェント+ MCP連携+Wide Research。複数アプリ横断実行が中核。 10	Enterprise上の独立デジタルワーカー。検索、生成、ツール実行、定期実行を1つに統合。 11	デスクトップ上の知識労働向けエージェント。ローカルファイル・アプリ・ブラウザをまたいで多段タスクを完了。 12
公開モデル情報	manus-1.6 / 1.6-Lite / 1.6-max は公開されるが、基盤FMの詳細は公開資料で限定的。 13	SpacesでGPT-5やClaude 4.6 Sonnet等の先端モデル選択が可能。Computerは組織のモデル設定を尊重。 14	Team/Enterpriseで全モデル利用。現行価格表ではOpus 4.7 / Sonnet 4.6 / Haiku 4.5 を提示。 15
ナレッジ/RAG	コネクタ、カスタムMCP、データソース。引用の強さより「外部文脈を持って作業する」設計。 16	Internal Knowledge Search、Spaces、Org Files。内部ファイルに対するインライン引用あり。 17	Enterprise Search、Projects、Research、Connectors。Slack・Google Workspace・Microsoft 365横断検索。 18
引用・レポートサビリティ	公式公開情報では法務向け引用追跡の説明は薄め。 19	Web/Org Filesともに引用が核。ファイル引用から原文へ辿れる。 20	Researchはチェックしやすい引用つき。Google WorkspaceやWordでも引用が前面。 21
法務・知財向けUI	専用法務UIは公開上限定的。汎用タスク・自動化UI寄り。 22	専用法務UIは弱い。探索・比較・レポート生成UIは強い。 23	Wordアドインが法律レビュー/メモ/反復編集に特化し、セクション引用・追跡変更対応。 24

項目	Manus	Perplexity Computer	Claude Cowork
主要連携	Gmail, Google Drive, Slack, GitHub, Notion, Stripe, HubSpot, Google Calendar, Zapier, API, custom MCP。 ²⁵	Gmail, Outlook, GitHub, Linear, Slack, Notion, Snowflake, Databricks, Salesforce ほか。ファイル系は Google Drive / OneDrive / SharePoint / Dropbox / Box、さらに Jira / Confluence / Asana 等。 ²⁶	Google Workspace, Microsoft 365, Slack, GitHub ほか。Enterprise Searchは Slack / Google / Microsoft 365 / custom connectors を横断。Coworkはプラグインで legal, finance 等を追加可能。 ²⁷
共同作業	Teamプラン、共有テンプレート、オーナー/管理者制御。 ²⁸	Spaces共同作業、組織ファイルリポジトリ、監査ログ。 ¹⁴	Projects共有、Team/Enterprise管理、Analytics API、Compliance API。 ²⁹
価格の予見性	クレジット制で変動しやすい。 ³⁰	席単金が中心で比較的読みやすい。 ³¹	Teamは読みやすい。Enterpriseは席単価+使用量課金で変動。 ³²
公開コンプライアンス	SOC 2 Type 1/2、ISO 27001、ISO 27701。AES-256/TLSの記載あり。 ³³	SOC 2 Type II、HIPAA、GDPR、PCI DSS。AES-256/TLSはDrive/SharePoint系コネクタに明示。 ³⁴	SOC 2 Type I/II、ISO 27001:2022、ISO/IEC 42001:2023、HIPAA-ready、DPA/SCC、IP allowlisting、Tenant Restrictions。 ³⁵

セキュリティとガバナンスで見た実務差

Manusは、公開のセキュリティページでSOC 2 Type 1/2、ISO 27001、ISO 27701を掲げ、Trust Center検索結果では**TLS/SSLとAES-256、RBAC**が示されています。加えて、Team Ownerはメンバーの全セッションデータやクレジット使用状況にアクセスでき、コンプライアンスAPIとして**e-discovery / legal hold / SIEM**用途のAPIも案内されています。反面、**データレジデンシー、VPC、オンプレ、APPI特化の公開記述は今回確認範囲では見当たらず**、知財部門が秘密情報を多く扱う場合は、公開資料だけでは足りません。 ³⁶

Perplexity Computerは、Enterprise基盤の上であり、**監査ログ、保持設定、モデル制御、サンドボックス隔離、組織単位のコネクタ制御、SCIM/Insights（一定条件）**が実装されています。特に、Google Drive/SharePoint/OneDrive系は、**APIベースの高プライバシーモードとインデックス型の高精度モード**を分けており、前者は「ファイルをコピーせず、引用スニペットだけ保持」、後者は「AWS S3+Vespaに格納しAES-256/TLSで保護」という設計が公開されています。これは、知財部門にとって「厳格モード」と「精度優先モード」を案件で使い分けやすい、という意味です。 ³⁷

Claudeは、プラットフォーム全体では最も企業統制が厚く、**監査ログ、Compliance API、Analytics API、カスタム保持、SCIM、IP allowlisting、Tenant Restrictions、DPA/SCC、HIPAA-ready**まで揃っています。商用プランでは顧客がController、AnthropicがProcessorであり、商用データは原則学習に使われません。ところが**Claude Coworkという機能単体に限ると、活動が監査ログやCompliance APIに入らず、規制ワークロード非推奨**です。したがって、知財部門でClaudeを入れるなら、「**Claude基盤は本命、Coworkは補助**」という運用設計が現実的です。 ³⁸

知財ユースケース別の実務評価

以下の評価は、公開仕様・UI・ガバナンス・引用設計からみた**実務適合性の推定**です。いずれの製品も、法的判断・正式調査・出願判断・クリアランス判断の最終責任を置き換えるものではありません。

推奨マトリクス

ユースケース	第一候補	第二候補	第三候補	端的な理由
先行技術調査・要約	Perplexity Computer	Claude	Manus	Perplexityは検索ネイティブで引用と監査が強い。ClaudeはResearchで追随。Manusは探索量は強いが追跡性が弱い。
特許明細書要約	Claude	Perplexity Computer	Manus	Claudeは長文読解・文書中心UIが強い。Perplexityは引用付き要約に強い。
特許請求の範囲作成支援	Claude	Manus	Perplexity Computer	文体制御・ドラフト支援ではClaude優位。Manusは多段タスク補助で次点。
意見書ドラフト	Claude	Perplexity Computer	Manus	引用・文体・反論構成はClaudeが最も扱いやすい。Perplexityは根拠確認で強い。
契約条項レビュー	Claude	Perplexity Computer	Manus	Claude for Word のセクション引用・追跡変更が強い。
類似商標検索支援	Perplexity Computer	Manus	Claude	Web/内部資料の横断比較はPerplexityが強い。Manusはブラウザ作業自動化が補助に向く。

ユースケースごとの詳細所見

先行技術調査・要約では、Perplexity Computerが最も安定しています。理由は、検索ネイティブ設計、内部ファイルとWebの併用、インライン引用、Spacesによる案件単位の知識束ね、監査ログと保持設定がそろっているからです。特許DBへのネイティブ接続は確認できないものの、**公開公報・技術Web・社内資料を束ねて「調査の骨子」を作る**用途には最も向きます。ClaudeもResearchで十分戦えますが、Coworkよりは通常のClaude Research/Projectsの方が適しています。ManusはWide Researchで探索量を出せますが、どの根拠からその結論に至ったかをチームでレビューする場面では、Perplexityに見劣りします。³⁹

特許明細書要約はClaudeが最適です。Team/Enterpriseは200Kコンテキスト、EnterpriseではSonnet 4.6で500Kトークン、Claude Codeでは1Mトークン級の文脈を扱え、ProjectsやWordアドインと合わせると、長い明細書や意見書・補正書の束を“文書として読む”体験が良いからです。Perplexityもファイル分析はできますが、設計思想はあくまで「探索と回答」に寄っています。Manusは要約自体は可能でも、知財文書レビュー向けのトレーサブルなUI説明が薄いです。⁴⁰

特許請求の範囲作成支援と意見書ドラフトは、Claudeが最も使いやすいという評価になります。法務・文書レビューワークフローにおいて、Wordアドインが**セクション引用、意味ベースの条項探索、追跡変更、コメントスレッド処理**に対応している点は大きく、社内テンプレートや過去案件をProjects / Enterprise Searchで参照しながらドラフトできる構成は、知財部門の実務に近いです。Perplexityも最新モデル群を選べるため内容生成は可能ですが、「どこをどう直したか」まで**Word的に扱う導線**はClaudeが上です。⁴¹

契約条項レビューは、Claudeが明確に優位です。公式ヘルプ自体がClaude for Wordを**legal review**用途に位置付け、クリック可能なセクション引用とネイティブのTracked Changesを前面に出しています。知財部門では、共同研究契約、秘密保持契約、ライセンス条項、成果物帰属、改良発明帰属、バックグラウンドIPなど

のレビューが多いため、この差は実務上大きいです。ただし注意点として、**Wordアドイン自体は現時点でEnterprise監査ログ/Compliance APIの対象外**なので、超高機密案件ではClaude本体側のチャット/プロジェクト機能が、社内管理されたWord運用と併用する必要があります。 42

類似商標検索支援は、3製品とも正式なクリアランス調査の代替にはなりません。公開DB・社内使用実績・Web情報・類否論点を束ねて「候補を洗い出す」補助ならPerplexity Computerが最も使いやすく、ManusはブラウザやMy Computerを使った収集自動化で次点です。Claudeも整理・要約は得意ですが、検索オーケストレーションはPerplexityほど前面に出ていません。いずれも**J-PlatPatや各国公的DB、有料DB、弁理士レビュー**を前提に使うべきです。 43

セキュリティ、プライバシー、価格、TCO

機密性要件に対する向き不向き

もっとも厳格に評価すべき観点は、「**秘密資料を入れたあとに、誰が見られるか、どこに残るか、どこまで追跡できるか**」です。Manusは、個人プランではタスクが非公開デフォルトですが、Team Ownerは全セッションデータと手順にアクセスでき、Adminも一部アクセスします。これは運用上便利でもあり、同時に**役割設計を誤ると知財資料のアクセス面が広がる**ことを意味します。さらに、My ComputerはローカルCLI実行で非常に強力ですが、承認が不要なコマンドもあるため、端末管理が甘い環境では過剰権限になりやすいです。 44

Perplexity Computerは、各タスクが隔離コンテナで動き、コード実行とブラウザ活動がサンドボックス化され、監査ログにComputer固有イベントが残る点が強いです。ファイル系コネクタは、APIオンデマンド取得とインデックス保管を分けられるため、**秘匿性を優先してAPI検索だけに**する運用がとれます。知財部門にとって、これはかなり実務的です。弱点は、公開資料上では**データレジデンシー、VPC/オンプレ**が読み取れない点です。日本法対応の観点では、**GDPRは明示、APPIは公開資料上の明示が未確認**という整理になります。 45

Claudeは、Enterprise全体では最も強い統制を持ちます。監査ログ、Compliance API、保持設定、IP allowlisting、Tenant Restrictions、DPA/SCC、HIPAA-readyまで含めて、法務・知財・ITが一緒にガバナンス設計しやすいです。ただし、**Coworkそのものは監査ログ・Compliance APIに入らず、規制ワークロード非推奨**で、さらにWord/Excel/PowerPointアドインも監査・保持の継承が限定的です。つまり、最も強いのはClaude“プラットフォーム”であり、最も注意が必要なのはClaude“周辺インターフェース”です。 46

価格と小規模・大規模チームのTCO感

構成	小規模 IP チーム 3-5名	大規模 IP チーム 20-50名	TCOコメント
Manus Team	5名で約 \$100/月 起点。SSOが必要なら30席未満では \$150+税のSSO add-on が別途。利用量はクレジット次第。 47	20名で約 \$400/月 起点、50名で約 \$1,000/月 起点。30席以上でSSO無償。クレジット増分が読みにくい。 47	席単価は低いが、クレジット消費の不確実性が大きい。法務本番運用では予算化しづらい。
Perplexity Enterprise Pro	5名で \$200/月 または \$2,000/年 。 48	20名で \$800/月 、50名で \$2,000/月 。 48	最も価格が読みやすい。探索主体なら費用対効果は高い。

構成	小規模 IP チーム 3-5名	大規模 IP チーム 20-50名	TCOコメント
Perplexity Pro+Max混在	4 Pro + 1 Max なら \$485/月 。Max 1席でSCIM/監査/保持の閾値を満たせる場合がある。 ⁴⁹	19 Pro + 1 Max なら \$1,085/月 、49 Pro + 1 Max なら \$2,285/月 。 ⁵⁰	“重い研究者だけMax”の混在が合理的。
Claude Team Standard	5名最小で \$125/月 、年契約で約 \$100/月 相当。Premium席は別。 ⁵¹	20名で \$500/月 、50名で \$1,250/月 。年契約ならそれぞれ約 \$400/月 、 \$1,000/月 相当。 ⁵²	文書中心業務でコスト予見性が高い。まずこれで十分なケースが多い。
Claude Enterprise	5名で 席費 \$100/月 相当から。ただし 利用量は別課金 。Sonnet 4.6 は入力 \$3/MTok、出力 \$15/MTok。 ⁵³	20名で 席費 \$400/月 相当、50名で \$1,000/月 相当から。利用量は上振れしやすい。 ⁵⁴	ガバナンスは最強だが、使い次第でPerplexityより高くなりやすい。

実務的には、**3-5名の知財チームなら Claude Team Standard が最も始めやすく、Perplexity Enterprise Pro が探索専用席として追加しやすい構成**です。逆にClaude Enterpriseは機能は魅力的でも、CoworkやClaude Codeを多用し始めると利用料が跳ねやすいため、**最初の3か月はTeamで実務適合を見る方が安全**です。Perplexityは組織横断探索・比較の専用機として、1-2席のMaxを混ぜる構成が費用効率に優れます。 ⁵⁵

20-50名規模では、**Perplexityは価格説明が最も明快**で、大人数への展開がしやすい一方、**Claudeは席費が低く見えても実使用量に応じて膨らむため**、管理者が支出統制を持てるかが鍵です。Manusは席単価だけなら安いものの、クレジット制ゆえに業務標準化ができるまで予算の精度が出にくく、**全社標準よりも限定ユースケース導入向き**です。 ⁵⁶

推奨アーキテクチャ、評価計画、ロールアウト

推奨方針

もし**1製品**だけ選ぶなら、知財部門の標準は**Claude Team/Enterprise**が最もバランスが良いです。理由は、文書読解、ドラフト、契約レビュー、テンプレート利用、社内知識統合、企業統制の総合点が高いからです。ただし実務上は、**Coworkを前面に出すより、Claude本体・Projects・Research・必要に応じてWordアドインを中心にする設計**が安全です。 ⁵⁷

もし**2製品構成**が可能なら、最も強いのは**Claude + Perplexity Computer**です。Claudeを「文書理解・ドラフト・レビュー・社内ナレッジ利用」の基盤、Perplexityを「先行技術・類似調査・横断比較・情報収集の起点」に分けると、両者の長所がきれいに分かります。Manusは、この2製品で固めた後に、**非機密の定型自動化やコネクタ横断処理**にピンポイントで入れるのが良い順番です。 ⁵⁸

文書ワークフロー統合イメージ

flowchart LR

```

A[案件受領<br/>発明届・契約・照会] --> B[機密度判定・案件分類]
B --> C[Perplexity Computer]
B --> D[Claude Team/Enterprise]
B --> E[Manus]

```

C --> C1[Web + Org Files + Spacesで探索]
 C1 --> C2[引用付き要約・比較表]
 C2 --> F[担当者レビュー]

 D --> D1[Projects / Research / Enterprise Search]
 D1 --> D2[要約・ドラフト・契約レビュー]
 D2 --> D3[必要に応じて Word アドイン]
 D3 --> F

 E --> E1[MCP/Slack/Zapier/APIで収集・転記]
 E1 --> E2[成果物の整形・通知]
 E2 --> F

 F --> G[弁理士・法務承認]
 G --> H[DMS / ナレッジベース / メール配布]

パイロットで実施すべきテスト課題

パイロットは、「すごい例」ではなく、日常案件の失敗パターンを再現することが重要です。最低でも以下の6課題は、3製品に同一素材で投げて比較すべきです。

テスト課題	入力	評価ポイント
先行技術要約	公報3件+競合Web記事2件	引用の正確さ、取り違え率、検索漏れ
明細書要約	30-80ページ程度の特許明細書	長文保持、発明の本質抽出、図面/実施形態の誤読
請求項作成支援	発明メモ+従来技術要約	クレーム構造、過度な限定、サポート要件意識
意見書ドラフト	OA引用文献+現行請求項	相違点抽出、論理破綻、不要な断定
契約条項レビュー	NDA / 共同研究契約ドラフト	問題条項発見率、修正文言の妥当性、追跡可能性
類似商標検索支援	候補商標5件+商品役務	類似候補の拾い漏れ、ノイズ率、根拠整理

推奨プロンプト例

以下は、各製品共通で使えるパイロット用の標準タスク例です。

あなたは日本の知財部門アナリストです。
 以下の資料のみを根拠に、発明の新規性・進歩性観点で論点を整理してください。
 要件：
 - 事実と推定を分ける
 - 根拠箇所を明示する
 - 不明点は不明と書く
 - 最後に「人間レビューが必要な論点」を列挙する

この契約ドラフトを、成果物帰属、改良発明、背景知財、秘密保持、利用許諾、競業避止の観点でレビューしてください。

要件:

- 問題箇所を箇条書きで列挙
- 修正文案を示す
- 元条文との変更意図を説明
- 断定できない場合は理由を付して保留

次の候補商標について、公開情報ベースで類似しうる表記・称呼・観念の候補を洗い出してください。

要件:

- 公式DB調査の代替ではないことを前提にする
- 候補を「高・中・低」リスクで分類
- 確信度と追加調査項目を示す

測るべき指標

KPIは、「回答が賢そうか」ではなく、「再現できる品質か」で設計すべきです。最低限、引用精度、幻覚率、レビュー工数削減、初稿受容率、探索漏れ率、機密設定逸脱件数を計測してください。特に知財業務では、速度の改善よりも誤った自信を持つ出力の抑制が重要です。Manus自身もヘルプで幻覚の存在に触れており、これは他2製品にも共通するので、“出力の説得力”と“法的に使えること”を分けて採点すべきです。

59

三か月のロールアウト案

gantt

title 知財部門向け 3か月ロールアウト計画

dateFormat YYYY-MM-DD

axisFormat %m/%d

section ガバナンス

NDA・DPA・利用規約確認 :a1, 2026-05-01, 10d

機密分類・持込禁止データ定義 :a2, after a1, 10d

管理者権限・監査設定 :a3, after a1, 15d

section パイロット

評価課題セット整備 :b1, 2026-05-08, 10d

3製品並行テスト :b2, 2026-05-18, 21d

採点・比較レビュー :b3, after b2, 7d

section 実装

コネクタ/Spaces/Projects設定 :c1, 2026-06-10, 14d

テンプレート/プロンプト標準化 :c2, after c1, 10d

利用ガイド・教育 :c3, after c1, 14d

section 限定本番

低リスク案件で限定運用 :d1, 2026-07-01, 21d

効果測定・是正	:d2, after d1, 7d
本番採否判定	:d3, after d2, 3d

最終提言

知財部門の“本当に使える”を一言で言えば、まず Claude、探索を深く回すなら Perplexity、Manus は後から限定導入です。より具体的には、契約レビュー、明細書要約、意見書ドラフト、請求項作成支援の中心に置くなら Claude が最も強く、先行技術調査と類似商標検索支援を重視するなら Perplexity Computer が最も実務に近いです。Manus は、定型収集・多アプリ横断・自動実行という別の価値があるため、いきなり主力にするより周辺自動化の尖った用途で採算を見極めるべきです。 ⁶⁰

最終的な推奨は次の通りです。単独採用なら Claude Team/Enterprise。ただし、Cowork は高機密案件で常用せず、まずは Claude 本体・Projects・Research・必要に応じて Word アドインを中心に運用にする。二刀流が可能なら Claude + Perplexity Computer。Perplexity を探索・根拠確認・比較表作成に、Claude を草案・レビュー・文書編集に使い分ける。Manus は Phase 2 で、MCP/Slack/Zapier/API を使う収集・通知・整形自動化に限定投入。この順番が、品質、監査性、予算予見性、導入リスクのバランスが最も良いです。 ⁶¹

オープンクエスチョンと限界

今回の比較は、公開されている公式ページ、ヘルプセンター、Trust/Security 資料を優先しており、以下は未解決です。

Manus はデータレジデンシー、VPC/オンプレ、APPI への明示的対応、基盤モデル詳細の公開が不足しています。

Perplexity は特許DB・商標DBとのネイティブ連携、データレジデンシー、VPC/オンプレの公開情報が不足しています。

Claude は Cowork 自体の監査ログ統合が未成熟で、Word/Excel/PowerPoint アドインも Enterprise 監査・保持継承に制約があります。加えて、プロンプト/出力の知財帰属は Manus のような平易な公式 FAQ が確認できたわけではなく、Perplexity/Claude はいずれも最終的には MSA/DPA/商用利用規約の条文確認が必要です。以上の点は、導入前に必ず RFP またはセキュリティレビューで確認すべき論点です。 ⁶²

¹ ⁵⁹ <https://help.manus.im/en/articles/13185575-is-there-a-way-to-check-how-many-credits-a-task-will-cost-before-i-begin>

<https://help.manus.im/en/articles/13185575-is-there-a-way-to-check-how-many-credits-a-task-will-cost-before-i-begin>

² ⁶ ³² ⁴⁰ ⁵¹ ⁵² ⁵⁵ ⁵⁷ ⁶⁰ <https://support.claude.com/en/articles/9266767-what-is-the-team-plan>

<https://support.claude.com/en/articles/9266767-what-is-the-team-plan>

³ ⁹ ²⁸ ³⁰ ⁴⁷ ⁵⁶ <https://help.manus.im/en/articles/11711111-what-is-the-current-membership-pricing-for-manus>

<https://help.manus.im/en/articles/11711111-what-is-the-current-membership-pricing-for-manus>

⁴ ¹¹ ²³ ²⁶ ³⁷ ³⁹ ⁴³ ⁴⁵ ⁵⁸ <https://www.perplexity.ai/help-center/en/articles/13901210-computer-for-enterprise>

<https://www.perplexity.ai/help-center/en/articles/13901210-computer-for-enterprise>

⁵ ⁸ ¹⁰ ¹⁶ ¹⁹ ²⁵ <https://manus.im/docs/ja/integrations/integrations>

<https://manus.im/docs/ja/integrations/integrations>

⁷ ¹³ <https://open.manus.im/docs/v1/create-task>

<https://open.manus.im/docs/v1/create-task>

- 12 <https://www.anthropic.com/product/claude-cowork>
<https://www.anthropic.com/product/claude-cowork>
- 14 17 20 <https://www.perplexity.ai/help-center/en/articles/10352914-what-is-internal-knowledge-search>
<https://www.perplexity.ai/help-center/en/articles/10352914-what-is-internal-knowledge-search>
- 15 53 54 <https://www.anthropic.com/pricing>
<https://www.anthropic.com/pricing>
- 18 <https://support.claude.com/en/articles/12489464-use-enterprise-search>
<https://support.claude.com/en/articles/12489464-use-enterprise-search>
- 21 <https://support.anthropic.com/en/articles/10166901-using-the-google-drive-integration>
<https://support.anthropic.com/en/articles/10166901-using-the-google-drive-integration>
- 22 <https://manus.im/blog/manus-max-release>
<https://manus.im/blog/manus-max-release>
- 24 41 42 <https://support.claude.com/en/articles/14465370-use-claude-for-word>
<https://support.claude.com/en/articles/14465370-use-claude-for-word>
- 27 <https://support.claude.com/en/articles/11176164-use-connectors-to-extend-claude-s-capabilities>
<https://support.claude.com/en/articles/11176164-use-connectors-to-extend-claude-s-capabilities>
- 29 <https://www.anthropic.com/news/projects>
<https://www.anthropic.com/news/projects>
- 31 48 49 50 <https://www.perplexity.ai/help-center/en/articles/10352986-enterprise-pricing-and-billing-frequently-asked-questions>
<https://www.perplexity.ai/help-center/en/articles/10352986-enterprise-pricing-and-billing-frequently-asked-questions>
- 33 36 <https://manus.im/ja/security>
<https://manus.im/ja/security>
- 34 <https://www.perplexity.ai/enterprise/security>
<https://www.perplexity.ai/enterprise/security>
- 35 <https://support.claude.com/en/articles/10015870-what-certifications-has-anthropic-obtained>
<https://support.claude.com/en/articles/10015870-what-certifications-has-anthropic-obtained>
- 38 <https://support.claude.com/en/articles/9267385-does-anthropic-act-as-a-data-processor-or-controller>
<https://support.claude.com/en/articles/9267385-does-anthropic-act-as-a-data-processor-or-controller>
- 44 <https://help.manus.im/en/articles/11711929-who-can-see-my-tasks>
<https://help.manus.im/en/articles/11711929-who-can-see-my-tasks>
- 46 <https://support.claude.com/en/articles/9797531-what-is-the-enterprise-plan>
<https://support.claude.com/en/articles/9797531-what-is-the-enterprise-plan>
- 61 <https://support.claude.com/en/articles/13345190-get-started-with-claude-cowork>
<https://support.claude.com/en/articles/13345190-get-started-with-claude-cowork>
- 62 <https://help.manus.im/en/articles/13125514-do-i-own-the-assets-websites-images-videos-slides-generated-via-manus>
<https://help.manus.im/en/articles/13125514-do-i-own-the-assets-websites-images-videos-slides-generated-via-manus>